

KENKYUS
NEW
SCHOOL DICTIONARY
(ENGLISH-JAPANESE)

研 究 社
新スクール英和辞典

編集主幹 福原麟太郎

東京教育大学名誉教授



KENKYUSHA
TOKYO

図書を大切に致しましょう。


- ▽ 図書館の図書は多数の人々に利用していた
だくものですから、汚損したり、破損した
りしないように丁寧に取扱いましょよう。
- ▽ 全集、叢書のような揃い物、辞書、百科事
典のような大冊もの、写真や図版の多い上
製本などは、とくに取扱いに注意いたしま
しょう。
- ▽ 館外貸出をした場合には必ず返済の期限を守りましょよう。
- ▽ 禁帯出(赤ラベル)の図書は館外貸出をいたしませんから館内だけ
で閲覧して下さい。



改訂新版の序

本辞典が、最初、岡倉由三郎先生御指導の下に、編纂出版されたのは、昭和四年の夏でありましたが、出版後十年間に発行部数百万部を突破するという、学生辞典界空前の大歓迎を受けましたことは、いまだに人々の記憶に新たなところであります。以来三十年、幸いにも各方面の好評を博し続けて来たのでありますが、その間時勢の変転とともに、本辞典の形式・内容についても更新すべき点が出て来たことは自然であり、また増補・改訂すべしという世論も当然各方面から湧き上って来たのであります。

こういう情勢の下に、私どもが本辞典の改訂に着手したのは、昭和二十八年の夏からでありました。その編集方針といたしましては、旧版同様あくまでも学習の参考となるべき資料を豊富に盛ることでありました。すなわち、改めて数度にわたり全文を検討し、親切に、平易に、しかも従来よりも精密に書き直し、さし絵(大カット、中カット)、図版、写真版、原色版なども、すべて海外の辞典、大百科辞典を参考として新時代に則する斬新なものに描き直しました。そして旧版以上に百科辞典的特色を加えて、万全に学習の便に資することができたと信じております。また旧版の一大特色でありました附録も、これを新稿に代え、全く面目を改めました。

旧版と比較して下ざると明瞭ですが、そのような改訂によってどの部分も旧版の面影を殆んど止めぬまでに一新されました。見出し語についておりましたウェブスター式表音符号も思いきって一掃し、発音は Daniel Jones の最新版 *An English Pronouncing Dictionary* (1956) によることにいたしました。つづり字も先に出版されました「大英和辞典」、「新簡約英和辞典」に従って一新し、見出し語の数も、二語見出しを加えて旧版の二割強を増加し、その説明にも用例を豊富に追加し、必要に応じて  印を用い学習上の参考となる注意・解説を加えました。また旧版の語義説明も全く書き変えましたが、こんどは、漢字制限、新かな使いに従ってありますから読みよくなりました。しかもいたずらに漢

字追放をせず、残すべきものは残し、その代りにかな書きとしてその後
にカッコで漢字をくくりましたから、初学者にとっても近づきよくな
ったことと信じます。そして、ただの英和辞典に止まらず、和英あり、文
法あり、発音の説明あり、その他学習上必要と思われる項目はすべてこ
れを附録にとり入れましたから、旧版以上に精彩を増し利用価値を加え
たことと思います。

このたびこの辞典を改訂出版いたしますについては、原編者岡倉先生
の遺産をうけついただという点で、故先生に先ず御礼を申し上げなければ
なりません。先生の置かれた基礎の上にこの辞典は出来たのであります。
また、付録は一大英語百科全書の観を呈して、他の辞典に見られない一
大特色をなしているのであります。その御執筆をいただいた市河
博士はじめ、本邦一流の諸学者の御好意に対し本辞典の名誉として厚く
御礼申し上げます。私はこの改訂を託されますと、先ずそれを手伝って
頂ける人を念頭に求めました。そしてまっさきに桜庭信之氏にお願いし
ました。それから芹沢栄氏、広瀬泰三氏にも分担をお願いしました。そ
うしているうち、桜庭氏はイギリスに在外研究員として留学されること
になり、満一年のるすが生じ、一頓座を来すところでしたが、他の二氏
の異常な御努力に加えて、新井迪之氏、清水砾や氏の御助力をも得るこ
とが出来、満三年の歳月を尽して、上述のごとく、劃期的な改訂をいた
すことが出来たのであります。画家黒沢充夫氏そのほか社内編集部の荒
木源博氏、紀晃一氏、印刷部の諸氏の必死の精励も忘れることは出来ま
せん。謹んで、みな様に御礼を申し上げます。そしてこの辞書が、それほ
ど鋭意な良心的な御協力の結果でできたことを特筆し、それにふさわ
しい貢献を、わが英語教育界にいたすことが出来ることを信じ、且つ、
それを祈って止みません。

昭和三十一年九月初

福原麟太郎

初 版 序

最大量の良きものを最小形の器に盛らうとする欲望は、人間の心情の古い頃からの強烈な一大相貌であるが、その欲望の顕れは、知識感情の宝庫としての書籍に於て最も顕著で、中にも吾々日常の同伴としての辞典上にその満足に対する努力が、之を編む者からも亦之を使用する者からも、共に熾烈であることは、敢て怪むに足らぬ。

併し、その努力の遂行に伴って之が方針に多大の關係を持つ重要な外的条件が二三あることを、吾々は忘れてはならぬ。使用と携帯との便宜もその一つ、また出版費用の軽減即ち各一本の単価の低廉も亦その一つである。この二つの要項は、輒近の出版技術の著しい進歩と相俟って、極めて細密にして且つ精微な組版に拠る辞典の出版となり、昔日に比して遙かに小型の体形の中に数倍の内容を圧縮充填しながら、而もその成果が驚くばかりの廉価を以て江湖に提供せられるに至った。さうしたこの方面の進展が将来の文運に甚大な好影響を齎すことを想ふ時、吾々は大に邦家の為に慶賀するのである。

けれども、茲に今一つ吾々の考慮を要する点がある。それは、以上の趨勢が一般の辞典出版に及ぼす一つの已むを得ぬ結果としての、微細な活字の無差別な使用と、之に伴ふ初心者^の学習困難の増加とに就いてである。事に慣れた者から觀ての日常茶飯の事物も、初学びの輩には、殆んど想像しがたきほどの苦心を要する。適当な習練を積んでの後に於て、その事を行つてゐると云ふ意識さへ消えている行為が、学習当初に於て、如何に吾々の努力を要し、出来上つての後からは、をかしい程の緊張と疲労と惘憊とを之が為^にに經驗するかは、幼少の頃の遊戯に就いての想ひ出からも、吾々の誰にもよく知れてゐる。まして真面目な物学びの事柄に関しては、学習の初期に於ける精神疲労の問題が、十分に吾々の考察と反省とを要すべきである。自國語を以てしての童話の如きものすら、幼き児童に向つて語りいだされる時、久しからずして、屢々甚だしい精神の疲れを聴く者に生ずることは、心ある父兄の気付く事實、まして外國語の初めての学習に當つて、学習者の心の緊張は一層甚だし

いもので、発音の微、字形の細、之を一々聴き分け視分ける労苦は素より容易でない。学習当初の学級に於ける外国語のみに由る授業は、毎回三十分を越えぬ程度を有効とするのもこの故である。之を単に一字母の形に就て観ても b と d と p と q とは、それぞれ別個の文字であるが初学者には唯一つの文字の三種の転倒と考へられるのが往々で、その識別は小形の活字での印刷に由り益と困難となる道理である。

茲に於て、特殊の用意の下に成った、初学者用の辞典の必要が生じて来る。その久しく痛切に感ぜられ、当然夙に満たさるべくして今日まで満たされずにいた必要に対応し、之を最も正しく解決することを第一の存在意義として生れ出でたのが、即ち本書である。本邦に於ける英和辞典の在来の編輯様式に種々の改善の余地を認めた研究社は、曩に「新英和大辞典」を出し、近くは「新英和小辞典」を公にして、それぞれに同種出版物の間に一新生面を打開し、その方面の事業がやゝ緒に就いたので、数年来の企画をいよいよ実行に移し、遂にこの、在来の辞典と大に撰を異にした編纂物の刊行を敢てするに至ったのである。その際、「大英和」の場合の如く、本書にも自分がその編成の主幹となり、平生の所信の一端を、各頁各項の面に遂行披瀝することに由って、再び大方の、この度は主として初期の英語を学ばるゝ人々の為に、聊か尽すことを得たのは、自分にとって洵に無上の喜びである。

終りに臨んで、本書の編纂に甚大の努力を与へられた多数の方々に対し深き謝意を表する。(昭和四年夏)

岡 倉 由 三 郎

凡 例

I 本辞典の構成

(1) 本辞典の本文には普通の英語語句のほか、接頭・接尾辞、連結形、略語、常用外来語句および固有名詞を収め、アルファベット順に並べてある。

(2) 下欄には必要に応じて上欄本文中の語句の解説・補註を加えた。

(3) 欧米の生活風俗および日用の事物に関する知識を豊富にするため、大カット 13 ページ、原色版 4 ページ、中カット 20 個、小カットおよそ 2,000 個を挿入した。

(4) 本辞典の特色ともいべき学習附録には、英語学・英米文学および英語学習に必要な項目 29 篇を添え、世界の風景、建築、彫刻、絵画、人物などの写真版 24 ページをも新たに追加した。

(5) 全巻を通して当用漢字と新かな使いに切り換えたが、やや読みにくいと思われる旧漢字はかっこに入れ、かなで表わした。

II 見出し語

(1) **排列**：すべてアルファベット順とし、普通一語見出しのほか、二語またはそれ以上からなる見出し語方式を採用し、複合語・派生語も追込みとせず、みな見出し語として掲げた。

(2) **字体**：一般の英語は立体ブラック活字 (**ab'sent**)、外国語・外来語および欄外の見出し語は斜体ブラック活字 (**a·gré·ment**) を用いた。

(3) **つづり字**：英国式を標準とし (**cen'tre**, (米) **cen'ter**)、極めて普通のものだけに限り米国式のつづり字 (**col'or**) をも見出し語に加えた。

(4) **分せつ(綴)** (syllabication)：音節の分れ目は (·) で示し、実際にハイフンを用いる複合語との区別を明らかにした。アクセント符 (') をつけた場所では点 (·) を省略して音節の切れ目を示すことにした。二語(以上)の見出し語の場合、各要素が他の場所で分綴されていれば、特に分綴しなかった。

III 発 音

(1) **発音記号**：主として Daniel Jones の *An English Pronouncing Dictionary*, (1956) によった。

(2) **発音**：見出し語の直後につけるのを原則とするが、発音が品詞によって異なる場合は、品詞別に示した。

(3) **アクセント**(強勢): 発音記号で示すとき、第一アクセントは ' を、第二アクセントは ` を、母音の上につけて示した。また第一アクセントの位置は、見出し語の分綴にも ' で示した (*av'er·age* [ævə'ri:dʒ])。

(4) **強い形**(Strong form) と **弱い形**(Weak form) とがあるものには、これを示した (**an** [(特に強めれば) æn, (普通は弱く) ən])。

IV 品詞および外来語の表示

(1) 発音記号の直後に、**㊦** **㊧** **㊨** **㊩** **㊪** **㊫** **㊬** **㊭** **㊮** **㊯** **㊰** **㊱** **㊲** **㊳** **㊴** **㊵** **㊶** **㊷** **㊸** **㊹** **㊺** **㊻** **㊼** **㊽** **㊾** **㊿** などによって示した (IX 参照)。

(2) **㊱** は動詞の過去・過去分詞形に限って用いた。**㊱** **㊲** とあるのは自動詞・他動詞両様に用いられることを示す。

(3) 外来語は《フランス語より》、《イタリア語より》などと明示した。

例 **eau** [ou] **㊱** 《フランス語より》水 (=water)。

er·satz' **㊱** **㊲** 《ドイツ語より》代用(の)。

V 語形変化

(1) **名詞の複数形**: 不規則なものに限り(複)として、その形および、必要に応じて、発音も示した。

例 **a·lum'nus** [əlɒmnəs] ... ((複) **alumni** [əlɒmnaɪ])

ap·pen'dix [əpéndiks] ... ((複) **appendixes, appendices** [əpéndi·si:z])

(2) **形容詞・副詞の比較変化**: 不規則なものに限り、比較級と最上級とを semicolon で区切って示した。

例 **ear'ly** ... I **㊱** (**earlier; earliest**) II **㊱** (変化 I に同じ)

(3) **動詞の活用**: 不規則なものに限り、過去形・過去分詞を semicolon で分けて示した。語形一つの場合は、過去・過去分詞は同形、あるいは助動詞の過去形であることを示すものである。つづり字で注意すべきものは現在分詞も動詞の活用のあとに semicolon で分けて示した。

例 **cut** ... (**cut; cutting**) (過去形も過去分詞もともに *cut* で、現在分詞は *cut·ting* と *t* が二重になることを示している)。

bid ... (**bade** [beid, bæd] or **bid; bidden or bid; bidding**) (*bid, bade, bidden; or bid, bid, bid* と変化することを示す)。

VI 語義・用法

(1) 語義の区分は品詞ごとに I, II, III ... で示し、その中をさらに 1), 2), 3) ... で細別した。

(2) 用法指示の略語は語義の前に《 》に入れて示した (IX 参照)。《英》《米》と

あるのは「主に英」「もと英」「主に米」「もと米」などの意味であることが多い。

(3) 学術・職域・専門別用法の指示も《 》に入れて示した (IX 参照)。《文》は詩語・雅語を含む文語、《俗》は俗語で、卑語をも含む。

(4) 同意語(句)は訳語の次に (=) で示した。

例 **earth** . . . 土じょう(壤) (=soil).

(5) 特に重要な前置詞の指示は訳語・同意語の次に () に入れて斜体字で示した。

例 **ex·cel'** . . . すぐれる (*in*).

(6) 反意語・対照語(句)は (× . . .) として、参照すべき類語(句)は → で示した。

例 **cow** . . . 雌牛 (×ox (特に去勢した) 雄牛, **bull** (去勢しない) 雄牛).
e'vil 悪 (×good 善).

bass . . . 低音の. →base.

(7) 語義の内容をさらに補足・説明する部分は () に入れるか、やや長いものは ☞ で示した。

(8) *Index*, さし絵, 写真版などを参照する場合にも → を用いた。

(9) 用例は語義のあとに colon (:) をつけてその次に示した。名詞の *Countable* (数えられる) と *Uncountable* (数えられない) との区別は、なるべく用例によって示すことにした。

(10) () はその中の語を、かっこ直前の語と交換して読むことを示す。

[] はその中の語を省略してもよいことを示す。ただしつづり字の場合は () を用いた。[] は語原、由来を示す場合にも用いた。

* 印は下欄に補註があることを示す。

< は '次の語から発達した' '次の語に由来する' という意味を示す。

例 **be (feel) ashamed of** (be ashamed of; feel ashamed of と用いられることを示す)。

ec'log(ue) (eclog または eclogue とつづることを示す)。

ces·s'ation . . . [*<cease*] (動詞 *cease* より出たことを示す)。

go [on] an errand 使いにいく。 (on を省略してもよいことを示す)。

VII 成 句

(1) 純粹の熟語・成句 (*Idioms, Set phrases*) は、品詞ごとに語義・用例のあとに ¶ (Phrase mark) でまとめ、斜体ブラック活字で示した。

(2) 成句で意義の分れるものは, (1), (2), (3) . . . のように区分した。

(3) 用例および成句の中, *one*(*'s*) は「自分(の)」の意味, *a person* は「人」「相手」「他人」の意味で代表的に用いた。

例 **eat (a person) out of house and home** (人)を食いつぶす。

VIII 語 原

語原は言語学的というよりも由来、派生語の関係などを示すにとどめた。

例 **dah'lia** ... [スウェーデンの植物学者の名 Dahl から]

E'den ... [エデンはヘブライ語では「歓喜」の意味]

en'try ... [< enter]

Kew'pie ... [< Cupid]

Lei'ca ... [Ernst Leitz+camera]

IX 本辞典の略語表

主なものを示す。

【接頭】.....接頭辞	(単).....単数
【接尾】.....接尾辞	(複).....複数
【複名】.....複数名詞	(略).....略語
(英).....英国	(古).....古語
(米).....米国	(詩学).....韻律学(詩形学)上の語
(文).....詩語・雅語 を含む文語	(英俗).....英国の俗語
(俗).....俗語	(米俗).....米国の俗語
(口).....口語	(英口).....英国の口語
	(米口).....米国の口語

(医).....医学	(昆).....昆虫	(幾).....幾何
(楽).....音楽	(商).....商業	(理).....物理
(貝).....貝類	(宗).....宗教	(空).....航空
(海).....海語	(植).....植物	(経).....経済
(魚).....魚類	(動).....動物	(法).....法律
(化).....化学	(生).....生理	(電).....電気
(光).....光学	(天).....天文	(史).....歴史
(鉦).....鉦物	(心).....心理	(哲).....哲学
(軍).....軍事	(数).....数学	(美).....美術
(建).....建築	(代).....代数	(論).....論理
㊦.....名詞	㊧.....動詞	㊨.....助動詞
㊩.....代名詞	㊪.....自動詞	㊫.....前置詞
㊬.....形容詞	㊭.....他動詞	㊮.....感嘆詞
㊯.....副詞	㊰.....接続詞	

表音記号一覽表

母音 音標文字	例	子音 音標文字	例	非英語音 音標文字	例
i:	<i>see</i>	b	<i>bed</i>	ã	<i>en passant</i>
i	<i>it</i>	t	<i>tent</i>	ẽ	<i>chopin</i>
e	<i>get</i>	d	<i>desk</i>	õ	<i>con</i>
æ	<i>cat</i>	k	<i>kind</i>		
ɑ:	<i>father</i>	m	<i>man</i>	<hr/>	
ɔ	<i>hot</i>	n	<i>note</i>	斜体字で示してある音は発音することもあり、しないこともあることを示す。	
ɔ:	<i>saw</i>	l	<i>lily</i>	例 station [stéiʃən]	
u	<i>put</i>	r	<i>rain</i>	例 empty [éempti]	
u:	<i>too</i>	f	<i>fan</i>	例 careful [kéəfʊl]	
ʌ	<i>up</i>	v	<i>five</i>	例 distinction [distɪŋkʃən]	
ə:	<i>bird</i>	s	<i>sea</i>		
ə	<i>china</i>	z	<i>zoo</i>	<hr/>	
ei	<i>day</i>	h	<i>house</i>	記号	
ou	<i>go</i>	w	<i>way</i>	: 長音符	
ai	<i>fly</i>	g	<i>give</i>	(:) 長音符を発音することもあり、しないこともあることを示す。	
au	<i>how</i>	tʃ	<i>chin</i>	例 reaction [ri(:)ækfən]	
ɔi	<i>boy</i>	dʒ	<i>jam</i>	´ 第一アクセント	
iə	<i>here</i>	ŋ	<i>long</i>	˘ 第二アクセント	
ɛə	<i>there</i>	θ	<i>thin</i>	例 Japanese [dʒæpəni:z]	
uə	<i>gourd</i>	ð	<i>then</i>		
		ʃ	<i>ship</i>		
	子音	ʒ	<i>measure</i>		
p	<i>pen</i>	j	<i>yes</i>		

目 次

改訂新版の序	iii
初版序	v
凡例	xii

新スクール英和辞典	1-1444
-----------	--------

さ し 絵

Aerobatics (高等飛行術)	22	House (家)	607
Air Brake (エア・ブレーキ)	30	Human Body (人体)	611
Aircraft Carrier (航空母艦)	31	Lady's Dress (婦人の服装)	705
Architecture (建築様式)	65	Lenses (レンズ)	723
Bedroom and Bathroom (寝室と浴室)	113	Muses (ミューズの女神たち)	827
Bridges (橋)	164	Musical Instruments (楽器)	829
Colours (色) 原色版	387	Palmistry (手相術)	914
Costumes (衣しょう(裳)風俗)	288	Photography (写真術)	948
Dining Room (食堂)	351	Sea Fishes (海水魚)	1133
Domestic Animals and Cattles (家畜)	367	Shorthand (速記術)	1164
Farm (農場)	453	Sports (スポーツ)	1216
Flags of the Nations (国旗) 原色版	129	Street (街頭)	1245
Flowers (花) 原色版	645	Swimming (水泳)	1273
Fresh-water Fishes (淡水魚)	509	Theatre (劇場)	1299
Fruits (果物)	512	Tools for Carpentry (大工道具)	196
Garden (庭)	523	Trees (樹木)	1331
Gems (宝石) 原色版	903	Winter Sports (ウィンター・スポーツ)	1424
Gentleman's Clothes (男子の服装)	531	Zodiac (黄道)	1442
Hounds and House Dogs (犬の種類)	602		

和英新辞典	1445-1586
外来語辞典	1587-1593
不規則動詞表	1593-1595
形容詞・副詞比較表	1596-1597
接頭辞・接尾辞表	1598-1600

A REFERENCE GALLERY

イギリスの風物.....1604	世界の彫刻.....1620
アメリカの風物.....1608	ギリシア神話の神々.....1621
世界の風物.....1612	世界の偉人.....1622
世界の名画.....1616	世界の山と河.....1626

学 習 篇

英語の歴史.....	市河三喜....	1627
英語の語原.....	中島文雄....	1632
英語の発音法.....	岩崎民平....	1638
英語の綴字法.....	岩崎民平....	1664
英文法の話.....	大塚高信....	1672
英作文の話.....	増田綱....	1700
英文手紙の書き方.....	中西秀三....	1722
英文日記の書き方.....	中西秀三....	1732
英語会話.....	寺西武夫....	1738
英文朗読法.....	黒田巍....	1748
英語句読法.....	外山滋比古....	1752
英語詩歌法.....	大和資雄....	1758
同意語の話.....	小澤準作....	1764
掲示用語.....	芹澤榮....	1770
英語の辞書.....	廣瀬泰三....	1772
英語と米語.....	高部義信....	1776
ローマ字の話.....	櫻庭信之....	1780

英国とその文学.....	福原麟太郎....	1786
米国とその文学.....	西川正身....	1800
聖書の話.....	齋藤勇....	1810
ギリシア神話と英語.....	野尻抱影....	1816
英語のなぞと諺.....	高瀬省三....	1820
花ことば.....	高瀬省三....	1826
英米の国旗と国歌.....	古家鴻三....	1830
英米礼法の話.....	齋藤美洲....	1836
世界史年表.....	富原芳彰....	1844
<hr/>		
世界貨幣表.....		1855
度量衡表.....		1856
時差表.....		1857

英語の発音法・目次

発音上達法	1638	英語の発音記号	1643
1. 英語の発音がむずかしいと いう意味	1638	12. 英語の文字と発音記号	1643
2. 耳の訓練	1638	13. 発音記号一覧表	1643
3. 口の訓練	1638	英語の母音の解説	1644
4. 発音とつづり字	1639	14. 母音の分類法	1644
5. 英語の発音とカナ文字	1639	15. 前母音	1644
発音器官	1639	16. 奥母音	1645
6. 発音器官の図解	1639	17. 中母音	1645
7. 発音器官の解説	1640	18. 二重母音	1646
音の分類	1641	19. 上向き二重母音	1646
8. 「いき」の音と「こえ」の音	1641	20. 中向き二重母音	1647
9. 母音と子音	1642	英語の子音の解説	1647
10. 母音の種類	1642	21. 子音の分類法	1647
11. 子音の種類	1642	子音の解説	1648
		22. [p] と [b] と [m] の音	1648

23. [t] と [d] と [n] の音	1649	36. 子音の連続	1655
24. [k] と [g] と [ŋ] の音	1649	37. アクセントの原理	1656
25. [s] と [z] の音	1650	38. アクセント符の付け方	1656
26. [ʃ] と [ʒ] の音, [tʃ] と [dʒ] の音	1651	39. 弱 母 音	1657
27. [f] と [v] の音	1651	40. 音の長さ	1658
28. [θ] と [ð] の音	1651	文の発音	1659
29. [l] の音	1652	41. 単語の発音と文の発音	1659
30. [r] の音	1653	42. 息の段落と意味の段落	1659
31. [j] と [w] の音	1653	43. 文のアクセント	1660
32. [h] の音	1654	44. 単語の強い形と弱い形	1660
33. 日英発音法の比較	1654	45. 強い形と弱い形の用法	1661
単語の発音	1654	46. r 音のつなぎ	1662
34. 音 節	1654	47. 文の抑揚	1663
35. 日本語の音節と英語の音節	1655	48. ね い ろ	1663

英文法の話・目次

まえがき	1672	数	1678
1. 文法とは何か	1672	17. 数	1678
2. 語 と 文	1672	18. 名詞の複数形	1678
3. 文の要素と文型	1672	19. 規則複数の作り方	1678
4. 語の分類——品詞	1673	20. 複合語の複数	1678
5. 句 と 節	1674	21. -en 複数	1679
格	1675	22. 変母音複数	1679
6. 格とその種類	1675	23. 不変化複数	1679
7. 主語所有格と目的語所有格	1675	24. 外来複数	1679
8. 同格所有格	1675	25. 二重複数	1679
9. 二重所有格	1675	26. 分化複数	1679
10. 独立所有格	1676	27. 絶対複数	1679
11. 群 所 有 格	1676	28. 強意複数	1680
12. 副詞的目的格	1676	29. 相互複数	1680
性	1676	30. 総 称 数	1680
13. 自然性と文法性	1676	31. 身分上下の複数	1680
14. 男性語と女性語	1676	32. 数の呼応	1680
15. 通 性 語	1677	人 称	1682
16. 擬 人 法	1677	33. 人稱とその種類	1682

34. 名詞の人称	1682	59. 完了形	1691
35. 人称代名詞	1682	60. 進行形	1691
36. 総称人称	1682	態	1692
37. 親心の we	1683	61. 能動態と受動態	1692
38. 複合人称代名詞	1683	62. 動作受動態と状態受動態	1693
比較変化	1683	63. 経験の受動態	1693
39. 比較変化	1683	話 法	1693
40. 規則比較変化	1683	64. 直接話法と間接話法	1693
41. 不規則比較変化	1684	65. 時制の関連	1694
42. 複合語の比較変化	1684	法	1694
43. 二重比較変化	1684	66. 法とその種類	1694
44. ラテン系比較級	1684	67. 叙実法	1694
45. 絶対比較級	1684	68. 仮定法	1694
46. 絶対最上級	1684	69. 命令法	1695
47. 漸層比較級	1684	関係詞	1695
48. 比例比較級	1685	70. 関係詞とその種類	1695
動 詞	1685	71. 関係代名詞	1696
49. 動詞の種類	1685	72. 関係副詞	1697
50. 定形と非定形	1686	語 順	1697
51. 不定詞	1686	73. 語 順	1697
52. 分 詞	1687	74. 形容詞の語順	1697
53. 動 名 詞	1688	75. 副詞の語順	1698
54. 助 動 詞	1688	76. 語 順 顛 倒	1698
時 制	1690	文の種類	1698
55. 時 制	1690	77. 構造から見た文の種類	1698
56. 現在時制	1690	78. 表現形式から見た文の種類	1699
57. 過去時制	1690		
58. 未来時制	1690		